

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は「〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 応用獣医学連合講座 浅井鉄夫」までお願いします。

〔編集後記〕

東アジアでは、2018年にアフリカ豚熱（African swine fever : ASF）が中国で初めて大規模に発生して以降、感染は周辺国へ拡大し、韓国でも2025年に複数の発生が報告されました。さらに、2025年10月には台湾でASFの発生が確認され、日本と同様に島国である台湾での発生は、地域の養豚業関係者に大きな衝撃を与えることになりました。一方、日本国内では、2018年9月に26年

ぶりとなる豚熱（Classical swine fever : CSF）が岐阜県の養豚場で確認されて以降、野生イノシシでの感染が各地で継続的に認められ、現在では鹿児島県にまで拡大しています。野生動物が感染環に組み込まれると、疾病制御が極めて困難となることを改めて示す事例です。これらの状況を踏まえると、海外からの侵入を防ぐための水際対策は、家畜伝染病対策において最も重要な要素の一つといえます。加えて、農場レベルにおける防疫管理、すなわちバイオセキュリティの強化についても、改めて見直しと徹底が求められます。

「ALL about SWINE」 第68号

ISSN 0918-371X
年2回発行

2026年2月発行
発行者 高 木 道 浩
編集者 浅 井 鉄 夫
発行所 日本 SPF 豚 研 究 会
事務局 〒305-0856
茨城県つくば市観音台3-1-5
国立研究開発法人 農研機構
動物衛生研究部門 内
info@jp-spf-swine.boo.jp